

## 石川県におけるフルマカモメの初記録

矢田新平

日本野鳥の会石川支部。〒923-0802 石川県小松市上小松町丙192-8 E-mail: syata@nsknet.or.jp

フルマカモメ *Fulmarus glacialis* はミズナギドリ科に属し、北大西洋と北太平洋の亜寒帯の海域に広く分布し、北太平洋ではベーリング海の島々で集団繁殖する (Harrison 1985, 日本鳥類保護連盟1996)。日本近海においては初夏の時期に北海道から関東の銚子沖海域にかけて多数渡来する (叶内・安部 1998, 清棲 1952, 小林 1972, 日本鳥類目録編集委員会 2000) が、日本海側では北陸以南の記録がほとんど無い。今回、石川県内の陸地で保護された本種 1羽が本県初記録となったので報告する。

本報告をまとめるにあたり、斃死体の譲渡を快諾下さった いしかわ動物園技師で日本野鳥の会石川支部会員の竹田伸一氏、また隣県の渡来状況を御教示いただいた福井県自然保護センターの松村俊幸氏と日本野鳥の会本部の山本浩伸氏に紙面を借りてお礼申し上げる。

### 保護時の状況および経過

本個体は、2001年1月19日、石川県羽咋市飯山町の雑木林付近 (36°57'N, 136°50'E) で衰弱した状態でうずくまっていたところを同町の宮本喜之氏によって保護された。石川県能美郡辰口町のいしかわ動物園に搬送されたが、衰弱が激しく、その日のうちに死亡した。

発見された飯山町は能登半島の付け根に位置する邑知潟にほど近い場所にある。邑知潟は富山湾から日本海に伸びた邑知地溝帯の中央にあり、このあたりは渡り鳥の渡り経路になっている。

保護された日の2、3日前 (1月15~17日) に石川県地方をおそった寒波は当地に15年ぶりの大雪をもたらし、平地でも80cmの積雪を記録した。この寒波によって外洋性の強い本種 (小林 1972) が陸地に迷行したものと推察されたが、迷行が富山湾側からか、日本海側からかは不明であった。

死亡後の測定値は、体重 336.4g、嘴峰長 32.7mm、翼長 299.0mm、ふ蹠長 46.6mm、尾長 115.0mm、全長 430mm、翼開長 990mm、頭長 83.1mmであった。これらの測定値、および特徴ある管鼻からフルマカモメと同定した (Harrison 1985, 清棲 1952, 小林 1972) (図1, 2)。虹彩色は暗褐色、嘴色はクリーム色、脚色はフレッシュピンクであった。また、身体の羽色は灰褐色であったことから、いわゆる暗色型であった。

死亡後の剖検では、本個体は雌であり、卵巣が発達していた。胃内からは6~7mm大の種不明のイカタコ類の口器3個と粘液物質しか確認されなかった。腸内には糸虫の一種が多数

2001年9月7日 受理

キーワード：フルマカモメ、石川県初記録

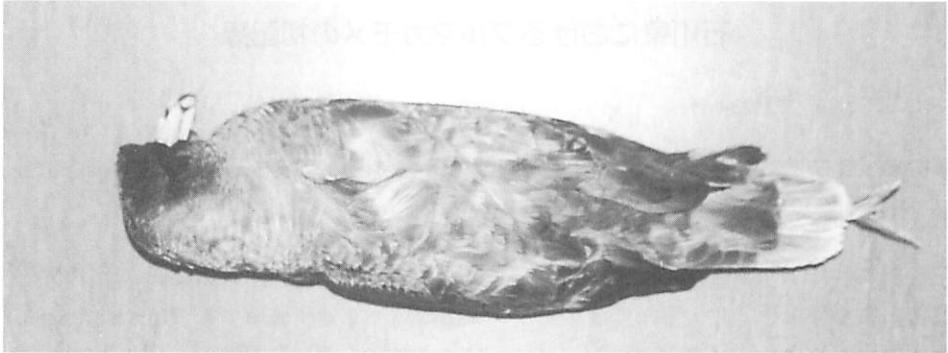


図1. 石川県で保護されたフルマカモメ

Fig. 1. A Fulmar rescued in Ishikawa prefecture is the first record.



図2. 保護されたフルマカモメの頭部

Fig. 2. The head of the rescued Fulmar.

確認され、腹部羽毛からハジラミの仲間（大型1，小型4）が採取された。右脚（脛骨）に骨折痕があった。体内からは釣り針，釣り糸，レジンペレットなどの人為的異物は見出せなかった。また羽根に重油の付着はなかった。

Sibley(2000)によれば、本種の平均体重は600gであり、それに比較し本個体は336.4gと約半分の軽さで、しかも皮下脂肪は皆無の状態であった。さらに胃内には不消化物以外は見出せなかったことから、激しい寒波が索餌の妨げとなって削瘦し、衰弱したことが死因の直接的原因になったと思われた。そして腸内に寄生していた多数の寄生虫と、脛骨の骨折も削瘦の原因になったのではないかと推察された。隣県の新潟、富山、福井からは本種の観察記録が過去に報告されていた（中村 1920, 小島・松村 1997）が、石川県での記録はこれまでに

なく(平野 2001), 今回の記録が本県初記録となった。今回の激しい降雪を伴った低気圧で、本種が石川県沖の海上にも冬期間棲息することが判明した。本個体は標本剥製として小松市立博物館に収蔵された(収蔵番号 KCM-ZB-1383)。

#### 引用文献

- Sibley, D.A. 2000. The Sibley Guide to Birds. National Audubon Society, Alfred A. Knopf, New York.
- Harrison, P. 1985. Seabirds : an identification guide (Revised Ed). Houghton Mifflin Company, Boston.
- 平野賢次. 2001. 石川野鳥年鑑 2000. 日本野鳥の会石川支部, 金沢市.
- 叶内拓哉・安部直哉. 1998. 日本の野鳥. 山と溪谷社, 東京.
- 清棲幸保. 1952. 日本鳥類大図鑑 II. 講談社, 東京.
- 小島明男・松村俊幸. 1997. 福井県初記録 フルマカモメ(暗色型). つぐみ -福井県支部報-. 日本野鳥の会福井支部, 福井市.
- 小林桂助. 1972. 原色日本鳥類図鑑. 保育社, 大阪市.
- 中村正雄. 1920. フルマカモメにつきて. 鳥 (10): 312-313.
- 日本鳥類保護連盟. 1996. 鳥630図鑑. 日本鳥類保護連盟, 東京.
- 日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広市.

## The first record of Fulmar in Ishikawa Prefecture

Shinpei Yata

Hei 192-8 Kamikomatsu, Komatsu, Ishikawa 923-0802, Japan

A weakened Fulmar *Fulmarus glacialis* was rescued on 19 January 2001 after severe snow falling. It died on the day rescued. It was found to have suffered severe weight loss. In the stomach I found only three beaks of cuttlefish or octopus. It is the first record of this species in Ishikawa Prefecture. It was stored at Komatsu City Museum as a museum specimen (KCM-ZB-1383).

*Key words:* Fulmar, *Fulmarus glacialis*, new record in Ishikawa prefecture